

Castel/J 2012

企画パネル（3）

8月22日（水）10:00-12:00

テーマ 「漢字と ICT の活用」

趣旨

日本語教育では、漢字の習得が大きな課題である。漢字の難しさは、ほとんどの日本語学習者や教師が抱く普遍的な悩みの一つである。それゆえに、これまでもこの悩みに応えるべく、様々な教授方法や学習方法が考案・実践されてきたが、最適解を得るには未だ至っていないようである。

日本語の漢字が難しいとされる要因には、字数が多いこと、字形が複雑であること、読みが多様であることなどが挙げられる。これらは、日本語の漢字がもつ特性でもあり、それらの特徴に魅力を感じる学習者がいる一方で、多大な負担を感じる学習者も多い。

昨今の情報処理技術の向上によって、漢字をリソースとした辞書や学習教材が生み出されてきている。本パネルセッションでは、漢字に関する各パネリストの取組や実践発表、事例報告等を踏まえた上で、ディスカッサントや会場の参加者とともに、ICT を活用した漢字学習、学習支援の在り方について議論し、将来について展望することができたら幸いである。

パネリスト

ヴォロビヨワ・ガリーナ（キルギス民族大学）

山田ボヒネック頼子（ヨーロッパ日本語教育学研究所）

ハルペンジャック（(株)日中韓辞典研究所）

ディスカッサント

加納千恵子（筑波大学）

徳弘康代（名古屋大学）

司会

高田智和（国立国語研究所）